

投資事業評価調書 (新規)

部課室名	県土整備部土木局港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 戸口田 克維 (坪内 稚和)	内線	4440 (4450)
------	-------------	---------------------	------------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	約 5 億円
		港湾改修事業 特定重要港湾姫路港 (飾磨港大橋補強)	姫路市飾磨区構 ~ 細江		
所在地				着工予定年度	完成予定年度
姫路市飾磨区構 ~ 細江				H 1 3	H 1 4

事業目的	事業内容
須加地区と背後地域を連絡する幹線臨港道路の橋梁の補強を行い、車両の大型化に対応する。あわせて耐震強化も行い災害に強い港湾づくりを目指す。	飾磨港大橋(上部工及び下部工補強) L = 370 m W = 13.5 m(2車線) 車両の大型化(総重量 25ト)への対応

評価視点	評価内容
(1)必要性 飾磨港大橋の現状	建設時期・・・昭和 53 年完成(建設後 20 年以上経過) 設計荷重・・・TL - 20 通過車両の大型化・・・コンテナトレーラ等(TL-20 オバー)：465 台/日 (H10)
安全・安心	地域防災計画上の位置付けがあり、本橋の耐震強化を図る必要がある。 ・幹線緊急輸送路(須加地区～手柄山)の位置づけ 須加地区：海上アクセスポイント 手柄山中央公園：広域輸送拠点 (耐震強化の必要性・・・現基準で見直すと、下部工の水平耐力が不足)
地域の活性化	物流効率化の支援から、本橋を車両の大型化に対応し構造変更する必要がある。 ・総合物流施策大綱(H9.4.4 閣議決定)に基づき、貨物輸送の効率化を図るため、重要港湾の物流拠点を結ぶ重要路線について、車両の大型化(総重量 25ト)に対応した補強を行うこととしている。 (須加地区取扱貨物量・・・年間約 210 万 t (姫路港全体の公共貨物の約 1/2)) ・通常時も大型車の安全な通行が可能となるため、港湾及び地域産業の活性化につながる。
(2)有効性・効率性 有効性	・費用便益分析比 B / C = 1 . 7 ・耐震化を図ることにより、大規模地震時にも幹線輸送路の確保が可能となる。 ・車両の大型化を可能にすることにより、物流の効率化を図ることができる。
効率性	・補修工事と補強工事の同時施工によりコスト縮減及び効率的な事業執行可能。
(3)環境適合性	
(4)優先性	須加地区と背後地域を連絡する姫路港の最重要橋梁であり、総合物流施策大綱に基づき、車両の大型化に対応した橋梁補強を緊急に行う必要がある。また、地域防災計画で幹線緊急輸送路に指定されており、大地震に備えて早急に対策が必要である。

評価の結果	着手妥当	左の理由	審査の結果、事業着手が妥当と認められた。